

電子版センターだより

Gunma Prefectural Education Center
群馬県総合教育センター - No.32 -

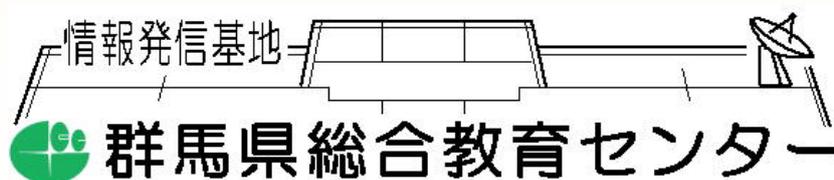


令和4年11月30日(水)配信

<掲載内容>

	頁
1 「ぐんま教育フェスタ」開催の案内	1
2 教育研修員研修の紹介	2
3 カリキュラムセンターの紹介	4
4 教育と保健・福祉の連携について	5
5 幼児期の教育コラム	6
6 教育相談技術認定について	7
7 当センターへ来所される方へ	8

* 編集後記 *



「ぐんま教育フェスタ」開催の案内

オンライン

(1)開催日時：令和5年2月4日（土）9:00～12:30

(2)内 容：以下の表のとおり

内容	予定時間
1. オープニング	9:00～9:15
2. ぐんま教育賞受賞者の表彰	9:15～9:40
3. 特別講演 演題：「教育に科学的根拠を」 講師：中室 牧子 氏 慶應義塾大学総合政策学部 教授 デジタル庁 デジタルエデュケーション統括 公益財団法人東京財団政策研究所 研究主幹  慶應義塾大学環境情報学部卒業後、日本銀行、世界銀行等を経て、コロンビア大学にてMPA、Ph.D.取得後現職。専門は教育経済学。規制改革推進会議、産業構造審議会等で有識者委員を務める。著書はビジネス書大賞2016準大賞を受賞した「『学力』の経済学」（ディスカヴァー・トゥエンティワン）、週刊ダイヤモンド2017年ベスト経済学書第1位の『原因と結果』の経済学」（共著、ダイヤモンド社）など。	9:45～11:15
4. 長期研修員発表	11:30～12:30

(3)参加方法：事前申込みが必要になります

総合教育センターWebページの「ぐんま教育フェスタ」バナー（12月中旬に掲載予定）から、ID、パスワードを入力の上、Google フォームにてお申し込みください。後日、参加用URLを申込時に登録されたメール宛てにお知らせします。

オンデマンド配信

(1)開催日時：令和5年2月9日（木）～

(2)内 容：長期研修員（研究成果発表動画（※4日の内容）、成果物紙面発表）
：長期社会体験研修員（研究成果発表動画、成果物紙面発表）
：特別研修員（成果物紙面発表）
：先進プログラミング教育（モデル校の取組紹介・集中セミナーの様子）
：宇宙教育（ぐんま宇宙教育パッケージ紹介）

(3)視聴方法：総合教育センターWebページにリンクを掲載します。

事前申込みは必要ありません

「ぐんま教育フェスタ」は研修員による研究成果の発表や講演会を通して、教育における最新情報の提供と群馬県の教育課題解決の提案を行い、先生方の日頃の不安や悩みを解消する一助になります。ぜひ、この機会に群馬の教育の在り方について一緒に考えていきませんか。



教育研修員研修の紹介

教育の今日的課題の解決や実践的指導力の向上を目指した研修を通して、教員の資質向上を図るとともに、本県幼児、児童生徒の学力向上と健全育成に資することを目的としています。

長期研修員

長期研修では、国の動向や県教育委員会の指導方針を踏まえ、教育課題の解決に向けた研究及び研修を行っています。本県の教育課題を踏まえた研修を通して、実践的な指導力や助言力を高めるとともに、研究協力校や地域の中核として指導的な役割を担うことのできる人材を育成しています。

今年度は15名（小学校7名、中学校5名、高等学校2名、特別支援学校1名）が、各教科、道徳、特別支援教育、生徒指導・教育相談、ICT活用教育、多文化共生教育、高校教育の改善について研究を進めています。

【研修員のコメント】



生徒指導・教育相談の研究領域において、C&S質問紙による客観的児童理解に基づき、実態に即したソーシャルスキルトレーニングと構成的グループエンカウンターをセットにした「1人1台端末併用学級活動プログラム」を作成しています。対面と1人1台端末の活動を併用しながら、児童が互いに認め合い、支え合える集団を目指します。少しでも教職員の皆様のお役に立てる研究を深めていきたいと思っております。

沼田市立沼田東小学校 石井 千恵美



県教育委員会が進めている「ぐんま宇宙教育プロジェクト」の一環である「ぐんま宇宙教育パッケージ」の授業案の作成・実践を行っています。

「『宇宙を学ぶ』ではなく、『宇宙で学ぶ』」という考えのもと、小・中学校理科の学習内容に宇宙の素材を取り入れ、児童生徒が学んだことを深く理解することとともに、科学への興味・関心が高められるようJAXA宇宙教育センターや県内の関係機関と連携して研究を進めています。子供たちが宇宙をきっかけに更に科学に関心を持ち、楽しく主体的に学べるような授業案等を開発できるよう努めています。

甘楽町立甘楽中学校 橋本 恵士



聾学校小学部において、「みること・きくこと」に焦点をあてた自立活動について研究を進めています。児童は、聴力や聞こえ方の違いなどから、手話や指文字、音声、文字など、複数のコミュニケーションを用いながら、学習に取り組んでいます。児童の「みる力・きく力」を高めることが、各教科の内容理解にもつながると考え、実態把握や個別の目標の設定、具体的な学習内容例などを入れた自立活動の授業づくりを提案します。児童が活発に話し合い、思考を深めていく場面が増えることを期待し、先生方にとって使いやすいものとなるようがんばります。

県立聾学校 浅見 直子

長期社会体験研修員

長期社会体験研修では、一年間、県内の企業において業務に取り組み、各企業の組織運営や人材育成などについて研修を行っています。また、キャリア教育を推進するための授業や校内研修を、研究協力校において実践しました。今年度は2名（高等学校籍2名）が各企業で研修しています。

【研修員のコメント】



株式会社ヤマトにて、水処理施設の計装に関わる業務に携わっています。施工管理の仕事内容を知り、そのやりがいや厳しさを間近で感じ、社会人として必要な資質・能力を学ぶことができました。研究協力校では、自分のよさや課題に向き合い、理想の自分へ近付くための見通しや行動目標を宣言することで「始動人」として踏み出すきっかけとなる授業を行いました。

県立渋川工業高等学校 石川 誠一



株式会社SUBARU（群馬製作所）の人事課人財開発係の一員として、新入社員研修・役職研修など、従業員教育の企画・運營業務に携わっています。研究協力校では、現場の声を生徒たちに届け、働くことの意義や社会に必要な資質・能力について考えさせ、「キャリアプランニング能力」の向上を目標に授業を行いました。

県立西邑楽高等学校 栗原 昭久

特別研修員



「主体的・対話的で深い学びの授業改善ってどういうこと？」
「1人1台端末の効果的な活用ってどうしたらよいの？」と
思っている先生はいませんか。そのような疑問に答えるような実践授業を様々な校種、教科・領域で公開しました。

ある研修員は授業と家庭が連続するクラウドを用いた授業を行いました。子供たちが自分の考えをもって主体的に活動する様子や多様な考えを分類・整理するために子供たちが1人1台端末を効果的に活用し、友達の考えを聞きたくなくなったり、自分の考えを伝えたくなくなったりしている場面が見られました。

過去の教育研修員の報告書や指導案が【<https://center.gsn.ed.jp/kensyuin>】に記載されているので、先生方の実践にすぐ活用していただけたと思います。

【研修員のコメント】

- ・ 検討会では様々な視点でアドバイスをいただき刺激を受け、今までになかった視点で授業を分析し、子供が考えたい問題提示や発問、学びのつながりを意識した授業を構想することができました。
- ・ ICTを道具として使うことで、子供たちの活動の様子が変わってくるのが分かりました。指導と評価を結び付けることができました。



カリキュラムセンターの紹介

当センター2階にあるカリキュラムセンターでは、特色ある教育活動の実現や授業の改善・充実などに役立つ教育資料・図書等を収集し、閲覧・貸出を行っています。

また、新型コロナウイルス感染拡大予防として、「利用者ガイド」を作成しました。ご協力の程、よろしくお願いいたします。



開館時間

火曜～金曜 9時から17時（13時15分から14時15分までは昼休み）

新着図書・ビデオ・DVDの紹介



最新の図書を51冊配架しました。

今後も3ヶ月に1回程度、図書のリクエストも含めて、新着図書として配架していきます。

新着図書の一覧【 <https://center.gsn.ed.jp/wysiwyg/file/download/1/8831> 】R4.9.1現在
また、昨年度に人権ビデオ・DVDの貸し出しが多かった作品を紹介します。

題名	利用対象
「君が笑っていた」ソーシャルディスタンスの罫	中学生
ことばの暴力 ～心を傷つけたひと～	小学生・中学生

特集

教育相談の本の紹介と魅力をボードにまとめて作成しました。



研究員が実際に本を読んでお勧めしたい人や、注目してほしいところをまとめました。



新学習指導要領に対応した高等学校の新教科書を配架します。



高等学校の令和5年度から使用する教科書を配架します。普通教科から専門教科まで揃えています。

新型コロナウイルス感染拡大予防「利用者ガイド」（一部抜粋）

- 利用者の安全確保のために**
 - ・マスクを着用、手洗い・手指消毒・うがいの励行
 - ・定期的（開室前、午前、午後、閉室後）に利用した場所の消毒や換気
- 利用時のお願い**
 - ・入口：アルコール消毒液で手指の消毒、利用者シートの記入
 - ・滞在時間：短めに（概ね1時間以内）
- 資料の閲覧・貸出**
 - ・書架等で閲覧した資料：直接書架に戻さず、返却台へ



教育と保健・福祉の連携について

特別支援教育の更なる充実に向け、子供たち一人一人のニーズに合わせた指導を一貫して行うために、教育と保健・福祉の連携が求められています。

◎家庭・教育・福祉の連携「トライアングル」プロジェクトの紹介

学校と児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業所等との相互理解の促進や、保護者も含めた情報共有の必要性が指摘されています。こうした課題を踏まえ、文部科学省と厚生労働省では、各地方自治体の教育委員会や福祉部局が主導し、支援が必要な子供やその保護者が、乳幼児期から学齢期、社会参加に至るまで、地域で切れ目なく支援が受けられるよう、「家庭と教育と福祉の連携『トライアングル』プロジェクト」を発足し、家庭と教育と福祉のより一層の連携を推進するための方策を検討しました。

家庭・教育・福祉の連携「トライアングル」プロジェクト報告

～障害のある子と家族をもっと元気に～ 概要



1. 教育と福祉との連携に係る主な課題

学校と放課後等デイサービス事業所において、お互いの活動内容や課題、担当者の連絡先などが共有されていないため、円滑なコミュニケーションが図れておらず連携できていない。

2. 保護者支援に係る主な課題

乳幼児期、学齢期から社会参加に至るまでの各段階で、必要となる相談窓口が分散しており、保護者は、どこに、どのような相談機関があるのかが分かりにくく、必要な支援を十分に受けられない。

今後の
対応策

1. 教育と福祉との連携を推進するための方策

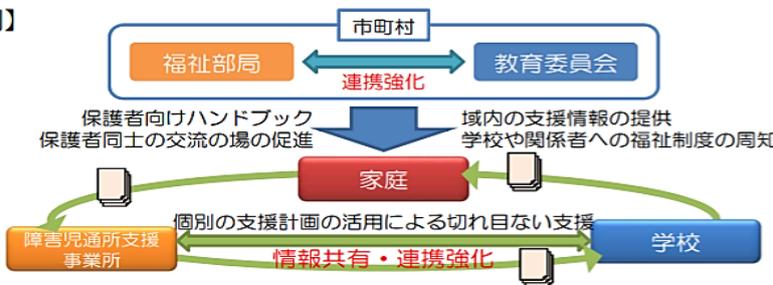
- ・教育委員会と福祉部局、学校と障害児通所支援事業所との関係構築の「場」の設置
- ・学校の教職員等への障害のある子供に係る福祉制度の周知
- ・学校と障害児通所支援事業所等との連携の強化
- ・個別の支援計画の活用促進

2. 保護者支援を推進するための方策

- ・保護者支援のための相談窓口の整理
- ・保護者支援のための情報提供の推進
- ・保護者同士の交流の場等の促進
- ・専門家による保護者への相談支援

【具体的な取組例】

- (厚生労働省)
- ・放課後等デイサービスガイドラインの改定
 - ・障害福祉サービス等報酬改定で拡充した連携加算を活用し、学校との連携を更に推進。



- (文部科学省)
- ・個別の支援計画を活用し、切れ目ない支援体制を整備する自治体への支援
 - ・保護者や関係機関と連携した計画の作成について省令に新たに規定

家庭と教育と福祉の連携「トライアングル」プロジェクト報告概要(H30) 文部科学省より

◎教育と保健・福祉の連携への支援

特別支援教育センターでは、年に一度「障害児相談担当者連絡会」を開催しています。目的は、教育及び保健福祉等の分野における発達や障害に関する相談担当者が情報交換・協議を行うことにより、早期からの一貫した相談・支援体制の構築及び関係機関との連携強化を図ることです。この連絡会には、乳幼児及び児童生徒の発達や障害に関する相談担当者が参加しています。

今年度は「在学中の子供への適切な相談・支援 ～教育と保健・福祉の連携より～」をテーマにみなかみ町の学校教育課と子育て健康課との連携を情報提供していただきました。その後、班別に情報交換会を行い「他市町村の連携を知ることができ参考にした点が多くあったので大変貴重な時間になりました」「学校、福祉行政、施設等それぞれの話を聞くことができ今後に生かしたいと思いました」という感想をいただきました。遠方に出向かなくても情報提供を聞くことができたり、集合が難しい状況でも班別で意見交換したりする等のオンラインのよさを生かした障害児相談担当者連絡会となりました。



幼児期の教育コラム

ジャンケンで決める



「ジャンケンでしか決められないん？（決められないの？）」

「ほんとにそれでいいんかい？（本当にそれでいいの？）」

これは私が幼稚園で担任をしていたとき、「もめ事」の際に幼児に掛けた言葉です。幼児が自分たちで「もめ事」の解決を図ろうとしているのだから、なぜそのようなことを言うのかなあ、自分たちで生活していこうとする素晴らしい姿ではないか、などと御批判もありそうです。

「ジャンケン」は、ロジェ・カイヨワの言う「アレア（運や賭けを伴う遊び）」であり、偶然性の内に面白さがあります。「あっち向いてホイ」には欠かせないものですし、かくれんぼや鬼ごっこの鬼を決める際にも有効な手段です。サッカーの試合前のコイントスのように、異議を言う者はいないと思います。

“もめ事”は幼児の日常の中にあります。意見の食い違い、役割の決定、ものの取り合い、順番…等、これを「ジャンケン」で決めることが、平和的で協働的な社会の実現を目指す未来の担い手としての子供たちに積極的に経験してほしいことなのかと、私は自身に問い続けています。

大学に勤務していた恩師と上述のような「ジャンケン」にまつわる私の実践と課題意識について話をしているなかで、次のように伺ったことがあります。「学生は研究室・ゼミでの役割などをジャンケンで決めようとする。一緒に過ごす仲間であるからこそ、互いの特性やサポートの体制、挑戦する意欲等を念頭に、ジャンケンではない方法を探してほしいと、その都度提案してきたが…」という話です。それぞれが背負っている背景や、そこに至る文脈を受けて進んでいく効率的ではない人間社会の意味について再考するきっかけになったことを記憶しています。

もう20年も前になりますが、小学校の生活科の授業を参観したことがあります。グループで考えたゲーム（この授業では「遊び」と言っていたが、敢えて「ゲーム」と表現する。その意図は昨年の「コラム」を参照）を紹介する授業でした。「タイヤのある場所」を巡って、二つのグループによる「どちらが先に使うか」についての“もめ事”が起こりました。そのとき近くにいた先生は「ジャンケンしなさい」と言ったのです。子供たちが、自他の思いや状況に気付き、なんとか前に進むために折り合いをつけたり、アイデアを出し合ったりする貴重な学びの時が失われた瞬間でした。

次に幼稚園で体験したエピソードを記します。5歳児のAちゃんとBちゃんは、同じ図柄のチラシで紙飛行機を作り園庭で飛ばしていました。一つの紙飛行機が水溜まりに着陸し泥で汚れました。Aちゃんは近くに着陸した汚れていない紙飛行機を自分のものだと言います。Bちゃんはびっくりした表情でその紙飛行機は自分の飛ばしたものだと言います。二人の会話は言い争いに発展しました。私はそこに2時間ほど関わることになりました。私が留意したことは二つです。一つは、時間が長くなるとBちゃんが諦めて「もういいよ」と言って去ろうとするのを引き留めること。もう一つは、このままだと互いに、相手は自分のことをどのように思って今後の友達関係を続けることになるのだろう？という問い掛けを、様々なアプローチで伝えること。最終的には2時間後、Aちゃんは、泥で汚れたのが自分の紙飛行機であることを話し、私も含めてみんな自然に涙があふれ出し、三人で肩を抱き合いました。

ジャンケンに委ねるのでも、大人が決めるのでもなく、子供が自分で、自分たちで「どうにか」する。子供と共に悩みながら、この過程の中で何が経験され、何が育ちゆくのかを理解していくことが大事なのではないかと思うのです。子供が「どうにか」しようと対象に向かっていく状況づくりは、子供が自分自身の世界を広げようとするにつながり、それこそが質の高い教育なのではないかと「ジャンケン」を通して思いをめぐらせた話です。

（幼児教育センター 指導主事 中村 崇）

お問い合わせ先：群馬県総合教育センター 幼児教育センター TEL：0270-26-9203（直通）

幼児教育センターWeb ページはこちら→【 <https://center.gsn.ed.jp/yokyo> 】

教育相談技術認定について

教育相談技術認定は、昭和43年に創設され、半世紀以上の歴史をもつ群馬県独自のものです。

様々な課題や悩みを抱える子供たちや保護者との関わりにおいて、教育相談の考えを学んで信頼関係づくりに生かしていきませんか。

毎年、多くの教職員の方から、初級及び中級の申請があります。中級取得後、指導的立場で活躍されている方々は、是非、上級取得を御検討ください。令和4年度教育相談技術認定の日程等は以下のとおりです。

令和4年度 群馬県教育研究所連盟 教育相談技術認定

申請資格

申請資格は、各級の①と②の要件を満たす者とする。

- (1) 初級（生徒指導・教育相談の基礎的な理論・技術を習得している者）
 - ① 学校又は教育研究所の教職員として2年以上の勤務経験を有する者
 - ② 「教育相談初級研修」を全て受講している者
- (2) 中級（初級取得後、生徒指導・教育相談の専門的な理論・技術を習得している者）
 - ① 初級の認定後、学校又は教育研究所の教職員として3年以上の勤務経験を有する者
 - ② 「教育相談中級研修」を全て受講している者
- (3) 上級（中級取得後、生徒指導・教育相談を指導的立場で実践している者）
 - ① 中級の認定後、学校又は教育研究所の教職員として3年以上の勤務経験を有する者
 - ② 次のア～ウを合計して3年以上の経験年数を有する者
 - ア 生徒指導担当、教育相談担当の経験
 - イ 教育研究所における相談業務（年間を通して週1回以上行ったもの）の経験
 - ウ 群馬県総合教育センター及び教育研究所における生徒指導・教育相談研修の講師・指導・助言の経験（年1回以上の経験を年度ごとに1年とする）



申請期間及び締切日

- (1) 持参する場合（県立学校も所在地により、以下の時間帯に御持参ください）
 - ・申請期間 令和4年11月29日（火）10：00～12：00（北毛地区〈吾妻・利根含む〉）
13：00～17：00（西毛地区）
 - 令和4年11月30日（水）10：00～12：00（東毛地区）
13：00～17：00（中毛地区）
- (2) 郵送する場合
 - ・締切日 令和4年11月30日（水）当日消印有効

申請書について

申請書は、当センターWebページからダウンロードして、使用してください。

【 <https://center.gsn.ed.jp/sodan/gijutunintei> 】

【ゲートキーパー養成研修講座について】※令和4年12月16日(金)実施

今年度から「ゲートキーパー養成研修講座」を新たに開設しました。自殺の危険性が高い児童生徒の早期発見、早期対応を図るため、自殺の危険を示すサインに気づき、適切に対応することができる「ゲートキーパー」としての資質・能力の向上を図ります。詳しくは、子ども教育相談係（0270-26-9217）へお問い合わせください。



当センターへ来所される方へ

空調工事の御連絡と防寒対策のお願い

現在、空調工事を実施しており、2月頃まで空調を使用することができません。暖房については、ファンヒーターでの対応を予定していますが、室温管理が難しく、座席の位置によっては寒かったり、暑かったりする場合があります。晩秋から冬にかけて、厳しい寒さが予想されますので、なるべく暖かく且つ温度調節が可能な服装（上着、ひざ掛け等持参）でお越しく下さい。



交通事故防止に御協力を



当センターには、毎日多くの方が車で来所し、駐車場を利用されます。特にこれからの時期は、日暮れが早くなり見通しが悪くなります。センターへの出入り及び敷地内を走行する際は、車だけでなく歩行者にも注意していただき、交通事故防止に御協力をお願いします。

編集後記

早いもので、今年も、残すところ一ヶ月となりました。今年度、当センターでは、オンライン研修と集合研修を組み合わせ、感染拡大防止に努めて研修を行ってきました。今後も、皆様に安心して質の高い研修を受けていただくために、工夫・改善を図っていきたく思います。

さて、今回お届けする電子版センターだより第32号では、『「ぐんま教育フェスタ」開催の案内』『教育研修員研修の紹介』『カリキュラムセンターの紹介』『教育と保健・福祉の連携について』『幼児期の教育コラム』『教育相談技術認定について』等、各担当係から最新の情報を掲載しました。是非、これからの教育活動に御活用ください。

皆様におかれましては、年末が近付き、忙しい毎日をお過ごしかと思います。今年の冬は、ラニーニャ現象の影響で寒さが厳しいという報道もありますが、世の中は次第にクリスマスムードになり、華やかなイルミネーションや美しい音楽に街が彩られる季節となります。是非この年末年始が、先生方にとって、心癒やされる時間となりますことを心より願っております。

(文責：T.O)

